

産業別四半期見通し調査結果

(2015年1-3月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2014年10-12月期の現況

- 全19業種中、「晴れ（好調）」は該当業種なし、「薄日（順調）」が7業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が5業種、「雨（不調）」が該当業種なしとなった。

◇ 2015年1-3月期の見通し

- 全19業種中、「晴れ（好調）」は該当業種なし、「薄日（順調）」が7業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が5業種、「雨（不調）」が該当業種なしと、横ばい見通しの産業が多い。

天気図記号	2014年 7-9月期	10-12月期現況	2015年 1-3月期見通し
 (好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 (順調)	7 業種	7 業種	7 業種
 (普通)	8 業種	7 業種	7 業種
 (低調)	4 業種	5 業種	5 業種
 (不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■ 1-3月期見通しのポイント

- 製造業では、国内・海外ともに設備投資が底堅く、工作機械や産業用機器などの需要が堅調な見込み。さらに自動車やスマートフォン向けなどの部品需要から、電子部品・デバイス、自動車部品、プラスチック製品なども順調な推移が見込まれる。一方、飲料製造や味噌などの食料品製造を手掛ける業種は、原材料価格の高値での推移から厳しい収益環境が続くとみられる。
- 非製造業では、食料品が堅調な大型小売や新型車効果が期待される自動車販売で、いずれも業況は上向き見通し。公共工事は豊富な手持ち工事により、前年並みの工事を維持する見込み。ホテル・旅館は円安を背景にスキーや観光を目的とした外国人利用客の需要増加を期待する。

照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所

調査部（担当：宮前、桑井、寺嶋）

TEL 026-224-0501

<産業別天気図一覧(19業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

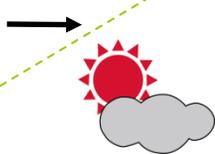
■調査期間：2014年12月中旬～15年1月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業19業種の142社

業 種	前期 (7-9月期)	今期 (10-12月期)	来期 (1-3月期)
工 作 機 械			→
半 導 体 製 造 装 置			↘
産 業 用 機 器			→
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→
自 動 車 部 品			→
光 学 ・ 計 器			→
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→
飲 料 製 造 (ノ ン ア ル コ ー ル)			→
清 酒 ・ ワ イ ン			→
味 噌			→
そ の 他 食 料 品 製 造			→
機 械 器 具 卸			→
大 型 小 売			↗
自 動 車 販 売			↗
公 共 工 事			→
民 間 工 事			↗
旅 客			→
貨 物			→
ホ テ ル ・ 旅 館			↗

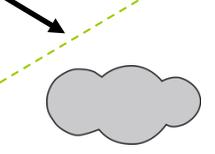
当研究所の注目産業

	1-3月期見通しの注目ポイント
電子部品・デバイス	<ul style="list-style-type: none">➤ 自動車向けは海外を中心とする安定した完成車需要に加え、衝突回避システムなどで1台当たりの電子部品の使用量が増加していることから、受注は堅調に推移する見通し。➤ スマートフォンやタブレット端末向けは、例年同様に期末にかけて完成品メーカーの在庫調整から需要が落ち着くものの、円安による受注環境の好転から堅調な推移が見込まれる。
ホテル・旅館	<ul style="list-style-type: none">➤ 都市部では、ビジネス客・観光客とも宿泊利用は底堅く推移すると見込む。➤ 観光地では、個人・団体客とも予約状況は堅調であり、記録的な大雪の影響で低調だった前年に比べ、宿泊利用は増加するとみられる。円安を背景に、スキーや観光を目的としたオーストラリアやアジア諸国からの外国人観光客を中心に順調な利用が見込まれる。➤ 北陸新幹線の延伸もあり、善光寺御開帳に向けた予約状況も順調に推移している。

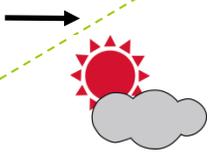
工作機械：北米がけん引し安定推移が見込まれる

<p>現況</p>	<p>国内は投資促進策などの効果もあり、自動車関連やスマートフォン向けの機械需要を中心に底堅く推移した。海外は、自動車関連の生産が活況な北米地域向けの需要が順調に推移した。欧州は、ドイツを中心に底堅く推移した。中国では自動車関連以外にもスマートフォンなどIT関連の電子機器製造が安定しており、機械需要は堅調である。また、東南アジアでは、タイで自動車生産の前年割れが続いているなど、設備投資の勢いが鈍化している。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は引き続き自動車関連やスマートフォン向けが中心となり、機械需要は底堅い推移が見込まれる。海外は北米地域向けの自動車関連需要が安定しており、機械受注は順調に推移する見通し。欧州は、景気減速の影響から先行きへの不透明感が強まっていることもあり、受注減少が懸念される。中国ではIT関連などの電子機器製造を中心に安定した需要が見込まれる。東南アジアでは、タイなどで自動車生産の回復が遅れるとみられ、機械需要も伸び悩む見通し。</p>
	

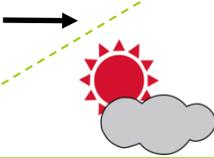
半導体製造装置：海外需要の低下に懸念

<p>現況</p>	<p>国内の半導体製造装置の需要は、電子制御装置をはじめ車載機器など一部の高性能品向けにとどまった。量産化が求められる汎用品向けの生産ラインは過剰感が残り、全体として製造装置に対する設備投資の動きは鈍かった。一方、海外は台湾を中心にスマートフォンやタブレット端末向けの半導体生産が堅調で、製造装置の需要も底堅く推移した。ただし、中国など現地の装置メーカーも技術力を高め、シリコンウェハ加工機械など装置の精度も向上している。そのため、価格競争は厳しく、利益幅の確保が難しくなっている。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、大手半導体メーカーを中心に車載機器やスマートフォンなど高性能を持つ半導体の開発・製造に向けた設備投資が見込まれる。ただし、汎用品向けの生産ラインの過剰感は続き、全体での装置需要は盛り上がりには欠けるとみられる。海外は、前年にスマートフォンの新製品投入に向けた大型の設備投資があったことから、製造装置の受注減少が懸念される。中国のシリコンウェハ加工機械などの需要に期待したいが、国内および現地のメーカー間で価格競争の厳しさが続くとみられる。</p>
	

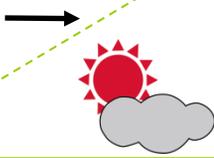
産業用機器：車載関連を中心に設備需要は堅調

<p>現況</p>	<p>車載関連は、海外の完成車向け需要がけん引し全体として堅調に推移したが、国内向けは消費増税の駆け込み需要の反動減の影響から前年を下回った。産業用ロボットなどのFA機器向けは国内向けの一部で伸びが鈍化した。受注は底堅く高水準で推移した。住設機器は駆け込み需要の反動減からの回復が鈍く、給湯器向けやガスヒートポンプなどで前年を下回った。水冷装置や空調機器は、設備需要が堅調であり底堅く推移した。円安で輸出面の恩恵を受けた企業があった反面、一部の企業では輸入部品の価格上昇が収益を圧迫した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>車載関連は、国内向けの受注回復には時間を要するとみられるが、北米を中心とする海外向け需要が引き続きけん引し、全体として堅調に推移する見込み。産業用ロボットなどのFA機器向けは、国内向けの一部で伸びが鈍化しているが依然として需要は高水準であり、底堅く推移する。給湯器向けやガスヒートポンプなどの住設機器は、住宅着工の回復の遅れから低調に推移するとみられる。水冷装置や空調機器は、安定した設備需要を受け底堅く推移する見込み。</p>
	

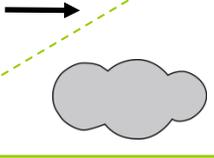
電子部品・デバイス：円安による受注環境は好転へ

<p>現況</p>	<p>自動車向けの受注は堅調に推移した。海外を中心とする安定した完成車需要に加え、衝突回避システムなどで1台当たりの電子部品使用量も増加している。スマートフォン、タブレット端末向けも、年末の需要期に向けた受注増加から好調に推移した。例年同様に11月以降、完成品メーカーの在庫調整から一部の企業で受注が減少したが、影響は前年より少なかった模様。テレビなど家電向けやデジタルカメラ向けは、年末に向けた需要の盛り上がりが見られず、低調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは安定した完成車需要に加え、電子部品の使用量増加から受注は堅調に推移する見込み。スマートフォンやタブレット端末向けは、例年同様に期末にかけて完成品メーカーの在庫調整から需要が落ち着くものの、円安による受注環境の好転から、堅調に推移する見込み。ただ、一部の完成品メーカーが製造機種を絞り込む動きがあり、今後の部品受注に影響が出ることが懸念される。家電向けやデジタルカメラ向けは受注の低迷が続き、引き続き低調に推移する見込み。</p>
	

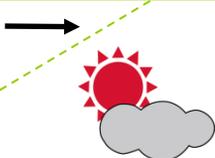
自動車部品：北米市場が引き続きけん引し、順調な需要を見込む

<p>現況</p>	<p>国内向けは、軽自動車など新型車効果で受注が伸びた車種もみられたが、一部完成車メーカーで生産調整が行われるなど、全体として消費増税の反動減が引き続きみられた。海外向けは、米国で景気回復による購買意欲の改善に加え、ガソリン安による追い風もあり、新車販売が金融危機以前の水準まで回復するなど受注は好調で全体をけん引した。円安による為替差益や輸出増加を通じ増益を見込む企業が見られた一方、仕入れ価格の上昇により収益が悪化する企業もあり業績に差が広がった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内向けは、一部完成車メーカーで引き続き生産調整が行われるなど弱い動きもあるが、年度末の最需要期を迎えることや、各社が投入する新型車向けの部品受注が見込まれ、底堅く推移する見通し。海外向けは北米が引き続き好調を維持し全体をけん引するとみられる。円安により引き続き為替差益が期待されるほか、生産の国内移転を検討する動きが強まることも予想される。一方、円安に伴う仕入れ価格の上昇でコスト増を懸念する企業も多いが、製品への価格転嫁は一部にとどまるとみられる。</p>
	

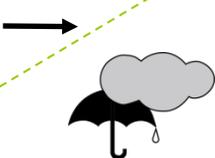
光学・計器：産業用や建機・自動車向けを中心に堅調に推移

<p>現況</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは海外向けを中心に、半導体関連の高付加価値製品の受注が好調だった。デジタルカメラ向けは需要の低迷から受注増加は限定的で、低調に推移した。スマートフォン向けは年末にかけて部品受注が増加したが、価格競争の激化から利益幅が減少した。自動車向けは、安定した完成車需要を受け前年を上回った。計器関連は、自動車向けや建機向けが堅調に推移した。ガスや水道など住宅設備向けは、更新需要から例年並みに推移した。医療機器向けは海外を中心に受注が増加し、好調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連では、産業用レンズは高付加価値製品の受注が堅調に推移するとみられる。デジタルカメラ向けは需要の低迷に加え、在庫調整から年度末にかけて受注は減少する見込み。スマートフォン向けも納入先の在庫調整から、受注は低下するとみられる。自動車向けは、安定した完成車需要を受け国内・海外ともに堅調に推移する。計器関連は、住宅設備向けで継続的な更新需要が見込まれるほか、建機・自動車向けも安定的に推移するとみられる。医療機器向けは引き続き好調に推移する見込み。</p>
	

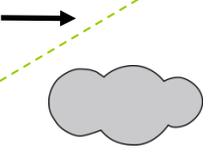
プラスチック製品：海外需要に支えられ、順調な受注が見込まれる

<p>現 況</p>	<p>自動車関連では、軽自動車やハイブリット車を中心とした国内需要に加え、北米などの海外市場に支えられ受注は上向いた。OA・情報関連では、複写機向けがトナーなどの消耗品で底堅かった。スマートフォン向けは、大手メーカーや中国系メーカーによる新製品の販売台数の増加から、関連部品の受注は順調に推移した。機械関連では、工作機械向けで投資促進策を活用した設備投資の動きから、安定して推移した。容器類は、飲料用や食品用で受注は底堅かった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>自動車関連では、国内では人気車種のモデルチェンジや新型車の発売があるほか、北米などの海外需要も加わり、順調に推移する見通し。OA・情報関連では、複写機向けで底堅い受注が見込まれる。スマートフォン向けは、中国系メーカーによる低価格品の販売が伸びるとみられ、部品単価の低下が進むとみられる。機械関連では、工作機械向けで更新需要を中心とした設備投資が続き、底堅く推移する見込み。ナフサ等の原材料価格については低下が進み、業界全体として収益面の改善が期待される。</p>
	

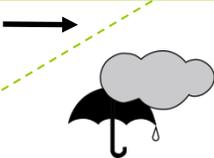
飲料製造(ノンアルコール)：製品値上げに向けた動きがあるも、収益環境は厳しい

<p>現 況</p>	<p>ミネラルウォーターや茶系飲料などの清涼飲料の販売量は、おおむね前年並みとなった。製品別では、飲料水にビタミンやカルシウムなどの栄養素や果汁を加えたニアウォーターに加え、気温の低下に伴いコーヒーなどホット飲料の需要が増えた。果実・野菜飲料の販売量は前年水準を下回って推移した。円安の進行などにより、輸入果実などの原料価格や包装資材価格などの上昇がみられたものの、販売価格の値上げは一部にとどまっており、収益を圧迫した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清涼飲料は、ニアウォーターなどの飲料水やホット飲料の需要により、全体の販売量は前年並みを見込む。果実・野菜飲料は、引き続き前年水準を下回って推移する見通し。仕入れ面では、輸入原料果実が円安などの影響で価格の上昇が懸念されるほか、包装資材の値上がりも見込まれる。すでに県外大手メーカーの中には製品価格の値上げを表明する企業もあり、県内企業も追随に向けた動きが予想される。しかし、コスト増加分を全て転嫁することは難しく、収益環境は厳しい見通し。</p>
	

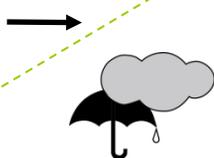
清酒・ワイン：需要は安定するも、収益の下押しが懸念される

<p>現 況</p>	<p>清酒・ワインともに新酒醸造の本格化と年末の最需要期を迎え、販売量は増加した。清酒は、純米酒や吟醸酒などの特定名称酒が堅調だった。しかし、一般的な普通酒は減少傾向が続いており前年水準を下回った。ワインは、消費者の間で国産銘柄への評価や関心が高まっていることから、前年を上回って推移した。一方、清酒・ワインいずれも瓶・ダンボールといった包装資材などの価格上昇がみられる中、価格転嫁は進まず、収益環境は厳しさを増した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清酒は、消費増税前の駆け込み需要がみられた前年同期を下回るものの、特定名称酒を中心に新酒や季節の限定商品などが堅調で例年並みの販売量となる見通し。ワインは、新酒の発売に伴う各社の販売促進に加え、県産ワインの試飲イベントなどへの注目も高く、安定的な推移が続くとみられる。しかし、清酒・ワインともに新酒の醸造が続く中で、資材価格上昇の影響は次第に大きくなることを見込まれる。製品への価格転嫁の動きは鈍く、収益の下押しが懸念される。</p>
	

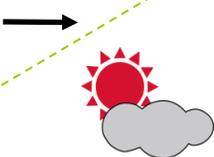
味噌：新商品に期待するも、厳しい収益環境が続く

<p>現況</p>	<p>全体的な売上高はほぼ前年並みで推移した。大手メーカーが手がける即席味噌は、減塩など健康にこだわった商品を中心に販売が増加した。一方で、県内事業者の大半を占める生味噌の需要の減少傾向は変わらず、無添加など一部の商品を除いて前年を下回って推移した。消費増税後、一般家庭向け商品の回復が鈍いとの声も聞かれた。原料米の価格低下で一部収益が改善した企業が見られたものの、円安による輸入大豆価格の高止まりにより、全体として厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>県内事業者の大半を占める生味噌の需要減少傾向は続くとみられる。3月にかけて新商品の発売時期であり、大手メーカーでは即席味噌や、無添加や減塩など健康に配慮した商品を投入するほか、一部の中小メーカーでは調理味噌など事業者向けの商品で販路開拓を図るとみられる。原材料は、輸入大豆についてシカゴ相場が下落しているものの、円安による高止まりが懸念される。また、昨秋収穫分の国産大豆の高騰による影響が今後出てくるとみられ、厳しい収益環境が続く。</p>
	

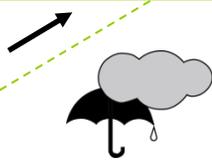
その他食料品製造：原材料価格の高止まりに懸念

<p>現況</p>	<p>加工肉はお歳暮シーズンを迎えて贈答用関連の販売が順調だったが、円安の影響もあり輸入価格は上昇した。製粉では、年末を迎えてそば粉の需要が高まるも、原料となる玄そばの減産と円安から仕入れ価格の上昇が続いており、収益を圧迫した。油揚げなど大豆関連製品は、健康志向から需要増加が見られた一方で、円安により輸入大豆価格の高値での推移が続いた。業界全体では、宿泊施設や土産物店といった観光地向けの製品が消費の落ち込みから低調だったのに加え、輸入原材料の価格上昇もあって収益環境は厳しかった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>加工肉は前年並みの販売量を見込むも、原材料の輸入価格は円安に伴い上昇するとみられる。製粉のうち、そば粉は原料の玄そば価格上昇に対し、一部企業を中心に少しずつ価格転嫁が進む見通し。大豆関連製品は堅調な需要が見込まれる一方、輸入大豆価格は高止まりし、収益圧迫要因となる。業界全体では、需要面は善光寺御開帳などを見据えて観光地向け製品などの増産が見込まれる。収益面は製品分野ごとに価格転嫁の動きが徐々に進展するも、円安により原材料価格は高値で推移するとみられ、厳しい収益環境が続く見通し。</p>
	

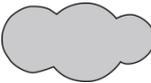
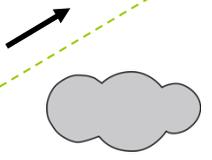
機械器具卸：設備投資需要も安定し、底堅い推移が見込まれる

<p>現況</p>	<p>工作機械は、自動車関連やスマートフォン向けを中心に受注は底堅く推移した。政府の投資促進策の効果もあったことなどから、新製品開発に向けた機械を導入する企業もみられた。工具類も工作機械と同様に、自動車部品向けを中心に動きは堅調だった。分電盤や配線機器などの電設資材は、大型の病院施設の需要は落ち着いてきているものの、公共工事も一定数出ていることから受注は安定している。依然として太陽光発電設備のニーズは高く、省エネLED照明なども含め受注は順調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>工作機械は、引き続き自動車関連やスマートフォン向けがけん引していく見込み。電設資材は、公共事業が安定しており堅調に推移する見通し。太陽光発電設備に関しては、4月に事業者向けの電力買取価格の引き下げが見込まれるため、現状の買取価格が適用されるうちに申請を行う必要があることなどから、引き合いが多くなるとみられる。省エネ対策からLED照明の需要は堅調に推移する見通し。前年同期は消費増税による駆け込み需要もあったことから、前年割れの売り上げを見込む企業もあるが、総じて底堅い推移が続くとみられる。</p>
	

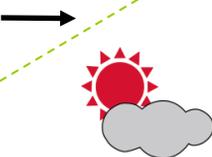
大型小売 : 衣料品は伸び悩むも、食料品は底堅く推移する

<p>現 況</p>	<p>百貨店では、物産展等の一部催事が食料品の売り上げに寄与したものの、来店客数の減少が続いたほか、天候不順などの影響から冬物衣料が振るわなかった。また、高額品も駆け込み需要が活発だった前年に比べると低調な推移となった。スーパーでは、生鮮食品が高値で推移したこともあり、食料品の売り上げは堅調だったが、衣料品は前年を下回る状況が続いた。また、食料品の仕入れ価格は上昇傾向にあるものの、競合店間の価格競争から販売価格への転嫁は一部にとどまっており、収益面の厳しさが続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店では、北陸新幹線の延伸などから来店客数の増加が期待され、食料品などは堅調に推移する見通し。一方、先行きへの不安感は払拭できていないとみられ、衣料品や高額品などの売り上げ回復には時間がかかる見通し。スーパーは、売り上げが好調な総菜などに引き続き力を入れていくとみられ、生鮮食品を中心に今後も底堅く推移する見通し。一方、衣料品の伸び悩みが予想されるほか、食材など仕入価格の上昇が続けば価格競争は激しくなるとみられる。収益環境の改善は見込めない見通し。</p>
	

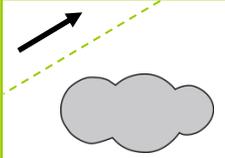
自動車販売 : 新型車効果による持ち直しに期待

<p>現 況</p>	<p>消費増税後の反動減は依然としてみられ、全体として回復の動きは鈍かった。一方で、新型車効果により販売が上向いたディーラーもあり業績に差が生じた。普通車や小型車は前年割れとなったが、軽自動車では新型車を多く投入した効果もあり、大きく増加した前年を上回る水準となった。輸入車においても総じて反動減の影響は残るが、ブランド力の高い新型車の販売は堅調に推移した。中古車は維持費の安さなどから、未使用の軽自動車を中心に一定の需要はあるものの、本格回復には至らず販売は伸び悩んだ。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>年度末の最需要期に向け、各社は新型車の燃費向上や自動ブレーキなど先進装備を消費者に訴求し需要喚起を図る。燃料価格は値下がりするも消費者の低燃費志向は変わらず、エコカー人気は継続するとみられる。特に軽自動車では新型車効果が続くほか、4月の軽自動車増税に向け一定程度の駆け込み需要も見込まれ、引き続き堅調に推移するとみられる。輸入車はファミリー層向けの新型車を投入するなど、新たな顧客層の獲得に注力する見込み。中古車は引き合いの多い未使用の軽自動車の品揃えを充実させ、販売促進を図る見通し。</p>
	

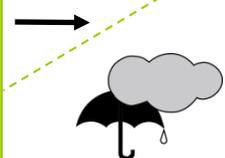
公共工事 : 豊富な手持ち工事により、前年並みの工事量を維持する

<p>現 況</p>	<p>官公庁から新たに発注された工事件数は前年と比べやや減少したものの、前期からの手持ち工事が豊富にあり、全体の工事量は前年並みとなった。発注者別にみると、国では道路関連の土木工事の発注が進み、県、市町村では学校等の耐震改修工事が堅調に推移した。採算面では、労務費や原材料費が高止まったが、豊富な工事量により採算を重視した選別受注が可能であり、各社とも利益を確保した。一部職種の技能者については、確保が困難な状況が続いたが、全体の人手不足感はやや緩和した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>官公庁から発注される工事量は前年同期を下回るものの、豊富な手持ち工事により、全体の工事量は前年並みの水準を維持する見通し。国は災害対策に補正予算を配分するものの、予算規模が前年を下回るため、工事量の減少が見込まれる。県発注の工事は道路関連や河川の改修等の土木工事が堅調に推移する見通し。市町村発注の工事は底堅く推移するとみられる。労務費、原材料費は高止まっているものの、燃料価格が低下しており、収益の改善が期待される。</p>
	

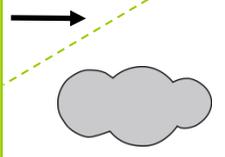
民間工事 : 住宅は低調も、設備投資関連の受注増加が期待される

<p>現況</p>	<p>民間企業の設備投資は、医療・介護関連のほか、流通、小売等、非製造業からの受注が堅調に推移した。製造業では受注量の大幅な増加には至らなかったものの、自動車部品関連や食品関連で、工場の改修や増設の工事がみられた。住宅関連は、13年に発生した駆け込み需要後の低迷が長引いており、個人住宅の新築やリフォーム工事の受注件数は減少した。円安に伴い木材やガラス等の原材料費が上昇し、労務費の高止まりも続いたが、販売価格への転嫁は難しく厳しい収益環境となった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の設備投資は、非製造業では底堅い受注が見込まれる。製造業では自動車部品関連等の一部業種のほか、業績の改善した企業による工場の改修や増設等の前向きな投資を進める動きがみられ、受注量の増加が期待される。住宅関連は、消費税再増税の延期によって、予定していた住宅購入を先延ばしにする消費者が増加するとみられるが、政府が住宅市場活性化策として検討を進めている、住宅エコポイントの復活等の効果が期待される。収益環境は厳しい状況が続く見通し。</p>
	

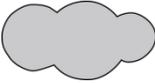
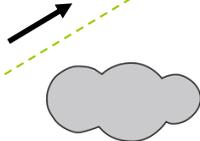
旅客 : 外国人需要に期待するも、国内観光客減少が懸念される

<p>現況</p>	<p>貸切バスは、秋季行楽期を迎えたものの天候不順や自然災害の影響を受け、観光地へのツアー利用は前年を下回った。高速バスは、年末年始が長期連休となったことで帰省客を中心に利用者は堅調に推移した。北信や白馬地域へのスキー目的の利用客を見込む便では、オーストラリアやアジア諸国からの外国人観光客の利用が増加した。タクシーは、降雪に伴う利用はみられたが、節約志向の高まりから利用者は低調に推移した。燃料価格が低下したことにより、収益環境の改善がみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>貸切バスは、観光オフシーズンを迎えツアー利用は伸び悩む見通し。高速バスは、首都圏方面路線で競合が生じているものの、ビジネス客や学生を中心に前年並みの利用者数を見込む。タクシーは、集客要因に乏しく依然として利用控えの傾向は続く見通し。全体では、国内観光客の減少が懸念されるが、円安を背景にスキーや観光を目的とした外国人観光客の利用増加が期待される。燃料価格の低下傾向は続くともみられ、運行コスト減少により収益は向上する見込み。</p>
	

貨物 : 燃料価格の低下による収益環境の改善に期待

<p>現況</p>	<p>全体の貨物量は、前年並みに推移した。自動車部品は、軽自動車・低燃費車向けを中心に貨物量は底堅かった。機械関連は、建設機械、工作機械など需要の盛り上がりを受け、荷動きは順調であった。食品関連は年末の需要期と、値上げが予定されている加工品の在庫積み増しの動きもあり貨物量は上向いた。ドライバーの労働時間改善のため、輸送時間短縮に向けた取り組みもみられた。一部で荷主企業との運賃値上げ交渉が進展したほか、燃料価格の低下が進み収益面の改善を後押しした。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>全体の貨物量は、横ばいで推移する見通し。自動車部品は、軽自動車・低燃費車向けを中心に上向くとみられる。機械関連は、建設機械、工作機械などで堅調な荷動きが見込まれる。食品関連は、継続的な受注があり荷動きは例年並みとなる見込み。荷主企業との運賃値上げ交渉は今後も積極的に行われる見通し。業界全体としてドライバー不足改善のための賃金値上げが進むものの、燃料価格は低下が続くとみられ、収益環境の改善が期待される。</p>
	

ホテル・旅館 : ビジネス客、観光客とも例年並みの利用を見込む

<p>現 況</p>	<p>都市部では、ビジネス客は引き続き堅調に推移したが、観光客は10月の台風による天候不順が週末に重なった影響から利用は伸び悩んだ。観光地でも天候不順の影響が大きく、個人・団体客ともやや低調に推移した。ブライダルは需要期を迎え、件数・規模ともほぼ前年並みであった。地震の影響により、国内観光客のキャンセルが発生した地域もあったが、外国人による宿泊利用は、スキーを目的とした観光客を中心に堅調であった。宴会部門は、忘年会シーズンを迎え堅調に推移した。</p>
	<p>都市部では、ビジネス客は引き続き堅調に推移したが、観光客は10月の台風による天候不順が週末に重なった影響から利用は伸び悩んだ。観光地でも天候不順の影響が大きく、個人・団体客ともやや低調に推移した。ブライダルは需要期を迎え、件数・規模ともほぼ前年並みであった。地震の影響により、国内観光客のキャンセルが発生した地域もあったが、外国人による宿泊利用は、スキーを目的とした観光客を中心に堅調であった。宴会部門は、忘年会シーズンを迎え堅調に推移した。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>都市部では、ビジネス客・観光客とも宿泊利用は底堅く推移すると見込む。観光地では、個人・団体客とも予約状況は堅調であり、記録的な大雪の影響で低調だった前年に比べ、宿泊利用は増加するとみられる。円安を背景に、スキーや観光を目的とした外国人観光客は、オーストラリアやアジア諸国を中心に順調な利用が見込まれる。北陸新幹線の延伸もあり、善光寺御開帳に向けた予約状況も順調に推移している。</p>
	<p>都市部では、ビジネス客・観光客とも宿泊利用は底堅く推移すると見込む。観光地では、個人・団体客とも予約状況は堅調であり、記録的な大雪の影響で低調だった前年に比べ、宿泊利用は増加するとみられる。円安を背景に、スキーや観光を目的とした外国人観光客は、オーストラリアやアジア諸国を中心に順調な利用が見込まれる。北陸新幹線の延伸もあり、善光寺御開帳に向けた予約状況も順調に推移している。</p>

